

SUSAP SUMMER 2024



大邱大学プログラム

2024.8.6~8.24

○メンバー自己紹介



伊佐 優綸亜 (団長)
芸術地域デザイン学部
芸術地域デザイン学科 3年

「韓国のことが大好きです！第一印象はよく明るいと言われます。今回の研修ではリーダーを務めさせていただきました！」



笹木 美桜 (副団長)
農学部 生物資源科学科
生命機能科学コース 2年

「韓国語スキルをあげるために SUSAP に参加しました」



大坪 未侑
経済学部
経営学科 3年

「好きな韓国料理はチーズタッカルビとカルグクス。韓国では、韓国語だけでなく、卓球の実力も伸ばすことに成功。この10人のメンバーと一緒に生活できて幸せな思い出が沢山出来た。」



牛嶋 咲希花
芸術地域デザイン学部
芸術地域デザイン学科 2年

「今回の留学で、初飛行機・初海外・初飲酒を経験。趣味は書道と茶道と甘いものを食べること」



藤田 和奏
芸術地域デザイン学部
芸術地域デザイン学科 2年

「独学で学んできた韓国語がどれだけ通用するのか試しつつ、現地での生活を通して更なる語学力向上と長期留学の可能性を考えたいと思い参加しました。バスで偶然出会ったお姉さんと仲良くなり、一緒に遊びに行ったことが良い思い出です」



東 ななほ
経済学部
経済法学科 2年

「教室が毎回寒かったことと寮の門限を守ろうと頑張ったことが思い出。面白い友達がたくさんできた。」



長原 早希
医学部
医学科 2年

「留学しようと思ったきっかけは、日本では体験できないことをできる機会だと考えたから。趣味はお散歩、空の写真を撮ること。」



宮原 珠梨
理工学部 理工学科
データサイエンスコース 2年

「趣味は音楽を聴くこと。以前から好きだった K-POP や韓国ドラマをきっかけに、より実践的な韓

国語を学ぶために参加を決意。みんなでデリバリーしたチキンを食べたことが良い思い出。」



阿部 香菜

農学部 生物資源科学科

生命機能科学コース 2年

「印象に残っている思い出は、キンパ作りと蔚山サマーフェスティバルです」



坂田 涼音

農学部 生物資源科学科

生命機能科学コース 2年

「坂田涼音です。ダンス部に所属しています。なので特技はダンスです。とてもマイペースな性格です。」



平山 太郎

理工学部

理工学科 1年

「参加した理由は韓国語を話せるようになりたかったから。趣味はバスケットをすること。」

○プログラムについて

【概要】

韓国語に知識が全く無い人も参加ができる韓国語・韓国文化入門プログラム。韓国語だけではなく、課外授業や見学と共に初級韓国語をマスターし、韓国文化を幅広く理解することができる。

また、現地学生との交流を深める「バディープログラム」も実施し、韓国人学生との交流を通してよりリアルな韓国を体験する。

【期間】

2024年8月6日～8月24日

【渡航スケジュール】

8/6 | 福岡空港から大邱空港に出発

8/7 | 大邱大学でのプログラムに参加

韓国語授業・韓国文化体験アクティビティー

現地学生との交流等

8/23 | プログラム終了

8/24 | 帰国

【留学先】

韓国 慶山市 大邱大学校

○大邱大学校について

キャンパス面積約268万5千㎡と韓国1番のキャンパスの広さを誇る。佐賀大学本庄キャンパスの面積は約44万3千㎡で、大邱大学は佐賀大学本庄キャンパスの6個分に相当する。大学敷地内には池や山があり、自然に囲まれた広大なキャンパスは美しいキャンパストップ10に選ばれている。

○授業について

初日にテストを受け、レベル別に3クラスに分けられた。授業は月曜日～金曜日までの50分×4時間授業で、間に10分休憩が取られていた。クラスメイトは、同じプログラムに参加している他の日本の大学生のみだった。一緒にハングルの読み書き、文法、日常会話などを勉強し、筆記試験とスピーキング試験で最終的な評価がされた。

○大学寮について

留学期間中は国際寮に滞在した。国際寮ということもあって、スタッフ以外の韓国人の方はおらず、各国から来た留学生と共に過ごした。

○バディについて

佐賀大学の学生1名につき大邱大学の学生1名でバディーを組み、留学前にメールで連絡を取り合った。留学中は大学を案内してもらったり、一緒に遊んだり、多くの時間を過ごした。

○韓国・大邱について

【韓国】

正式名称：大韓民国（대한민국）

人口：約5千174万人

国土面積：97,230平方キロメートル

都市部人口密度：81.7%

言語：韓国語

宗教：プロテスタント、仏教、カトリック（信者数基準順）

韓国は、他の国に比べ比較的新しく、独自の文化を持っている国である。特に、おいしい料理やK-POP、韓流ドラマが世界的に有名だ。首都はソウルで、近代都市として発展しつつも、文化財や伝統を大切にしている。また韓国は、最新のIT技術やファッション、エンターテインメント関連産業で活躍しており、世界中から注目を集めている。

【大邱（テグ）】

大邱（テグ）は、韓国の南東部に位置している。ソウルや釜山に次ぐ大都市で、経済の中心地、そして歴史的建造物や自然景観が多く、伝統文化が色濃く残る地として知られる。具体的には、韓方医学の拠点として有名で、特に「大邱薬令市」は古くから続く韓国伝統医学市として知られ、文化と歴史を感じられる場所である。



다채로운 관광 명소를 함께 사랑스러운 한국 여행지도 로열티 무료 사진, 그림, 이미지 그리고 스톡포토그래피. Image 47449810

「語学研修を終えて」

芸術地域デザイン学部 芸術地域デザイン学科

3年 伊佐優綸亜

今回私が参加したプログラムは、大邱大学の韓国語研修である。私がこの語学研修に参加しようと思った1番の動機は、もともと韓国という国に関心が強く、自分で韓国語を学習していく中で、もっと話せるようになりたいと思ったからだ。日常的に韓国語を使う環境に身を置くことで、語学力を伸ばすことができるのではないかと考えた。また、旅行で韓国に行ったことはあるが、大邱に行くのは初めてで、一人生活をしたことがなかったため、今回の研修は私にとってとても良い経験となった。

韓国に到着後、初日にレベルテストを受け、クラス分けをされた。私は文法を中心に学習するクラスだったが、韓国語を以前から勉強していた私でも、最初は先生の話すスピードが早く、内容理解に追いつけなかったり、授業の10分間休憩も先生から「休んでください」と言われたことに気づかず、授業の続きをしていると勘違いしたりすることがあった。しかしながら、2日目、3日目、と授業を受けるにつれて、授業のスピードにも慣れ、集中して取り組むことができた。

授業では、文化体験が様々行われた。韓国の伝統学習として、厄除けのお守り作りやユンノリという双六のような遊びをしたり、学外を見学しに行ったりした。特に、私は美術館を見に行くことができ、それも目的の一つであったため、貴重な体験だったと思う。

授業がお昼頃に終わると、大抵午後は空いている

ため、市内や大学近くに出かけることが多かった。市場やお店に出かけるには、バスや地下鉄の行き先を調べたり、店員さんに注文をしたりする必要があり、自分の語学力が試された。普段使わない言い方を覚え、実際に使うことができた時はとても嬉しかった。一方で大変なこともあった。バスをよく利用していたのだが、韓国のバスはとても早く、モタモタしていると運転手から急かされてしまうことだった。日本ではあまりそのようなことがないため、慣れない土地で暮らすということの大変さも分かった。しかし親切な方もおり、公共交通機関に迷った時に教えてくれた方だけでなく、最後まで周りの方が見守ってくれていたこともあり、韓国の方の温かさも感じた。

休日は少し遠い場所に遊びに行くことが多かった。私たちが行った時期の大学は夏休み中だったのだが、バディがいてくれたおかげでより楽しむことができた。1日目のオリエンテーションで対面し自己紹介をした。研修以前から連絡を取り合っていたためすぐに仲良くなれた。後半では、バディ同士2組・4人で市内へ遊びに行くことができた。美味しいお店に連れて行ってくれたり、私たちの行きたいところについてきてくれたりと、とても優しく、良い思い出を作ることができた。(写真1) 会話では日本の韓国人留学生と話をする時と違い、大邱の方言で話すことが普通なため、現地の言語に触れることができ新鮮に感じる一方、話したいことが言葉にできないということもあったため、会話力を上げようというモチベーションにもなった。

私は今回の語学研修を通して、語学力を上げる、という目標を達成できたと思う。最終テストでは、読みのスピードが前より早くなり、問題が簡単感じたため、成長できたのかもしれないと実感することができた。また、会話もネイティブな人のスピー

ドで大体理解できるようにもなった。

一方で、外国で暮らすということは大変なことでもあると心から感じた。留学前の私は、韓国は日本と似たところが多く、外国の中でも生活しやすそうだと思っていたが、実際に一人で暮らしてみると違いを感じ、簡単ではないと思うこともあった。

しかしながら、留学ならではの体験ができ、韓国がより好きになった。これからも、韓国語の能力向上に励み、自分の糧にしていきたい。



写真3.大邱美術館



写真1.パティとの交流



写真4.大邱名物の料理クッパ (국밥)



写真5.文化体験授業で作ったモール人



写真2.大邱市内の様子



写真6.修了式でのクラス写真

「韓国研修を通して」

農学部 生命機能科学コース 2年 笹木美桜

韓国研修は、私にとって言語学習だけでなく、文化的にもとても貴重でこれからの人生に非常に影響力のある経験となりました。

平日は 9:30 から 13:20 までの時間に 4 コマの授業があり、レベル別にクラスが分かれていたため、自分の理解度に応じたペースで新しい文法や表現を学びつつ、クラスメイトとコミュニケーションを取りながら楽しく韓国語を向上させることができました。授業の大半の時間は、会話練習やディスカッションだったため、実践的な韓国語を学べて有意義な時間を過ごせたと思います。また、時折行われた文化体験の特別授業では、韓国を代表する食文化の一つであるチキンを自分たちで作る実習や、韓国の伝統的な人形作りなどがありました。これらの活動は、韓国の文化を表面的に知るだけでなく、その文化を実際に体験することで、楽しんで深く洞察することができました。研修中には、韓国人に道案内をすることもありました。相手が求めている情報を素直に伝えることができたとき、大きな達成感を得ました。自分の言葉で相手をサポートできたことは、言語の習得以上の価値があり、成長の重要なポイントだと感じました。

休日には、大邱市内や釜山など、様々な都市を訪れて観光を楽しむ機会がありました。大邱は韓国でも伝統と現代が調和した都市であり、歴史的な建物や寺院が点在していました。釜山では特に魚介類を使った料理が豊富で、地方の食文化を実際に体験することができました。これに加えて、釜山のビーチや港から眺める景色は素晴らしく、韓国の自然の美しさに触れることができました。また、バディと週末にカフェに行ったり、おしゃべりをしたり楽しい

時間を過ごすことができました。

韓国に滞在中に最も強く感じた文化の一つは、年齢に対して非常に強い意識と、それに伴う「年上を敬う」という文化でした。韓国では 1 歳でも年が上ならば、その人に対して配慮を示すことが求められます。この文化は、日常のあらゆる場面で自然に表れていて、私はそのことを研修中に何度も実感しました。実際に授業をしてくださった先生は、「母に対して敬語は使わないが、父に対しては子供の頃から敬語を使っている」とおっしゃっていました。実際に見聞きすることはなかったものの、食事の際に先に箸をつける順番や、何かを提案する時の態度など、あらゆる生活の場面に反映されているようです。そのような年齢に基づくコミュニケーションの形が新鮮でした。

帰国してから、佐賀大学にいる韓国からの留学生と再会する機会がありましたが、その際、以前よりも理解できる韓国語が増えていることを悟りました。留学中の学びが実を結んだ瞬間であり、自信を持って韓国語を話せる喜びを感じました。今後も韓国語のスキルを向上させることに力を入れていきたいと思っています。また、韓国の文化やビジネス環境についても学び、将来的には国際的な場で活躍できるように準備を進めたいです。留学中に得た知識を活かして、韓国との交流を深めるイベントやプロジェクトに参加するなど、グローバルな人材に近づけるように努力していきたいです。



食堂で食べた韓国料理の写真

「大邱での生活を振り返って」

経済学部 経営学科 3年 大坪未侑

大邱大学のプログラムに参加し、もっと長く居たかっただと思うほど充実した3週間だった。今回のプログラムに参加したきっかけとしては、大学入学時から韓国に勉強をしに行きたいという思いがあったからであった。

大邱は韓国の中で東南部に位置しており、気温が高い地域だという知識を得たうえで研修に挑んだ。実際に生活をしてみて、日本の湿度ある暑さとは違い、乾いた熱さだった。個人的には湿度のない大邱の方が日本よりましな熱さだと思った。寮から教室までの距離は15分ほどだったため、毎日汗だくになりながら教室まで向かった記憶がある。学期中は学内にバスが走っており、遠い教室にも涼しいバスで迷うことなく行けるのだが、惜しくも長期休暇中はバスが通っておらず、観光なども含め毎日10,000歩ほど歩く生活を送った。

授業は、佐賀大学以外に日本全国から集まった学生と共に受講した。韓国語だけで進められていく授業に最初は戸惑ったが、聞き取りのスピードが上がっていく度に授業が楽しくなっていった。また、韓国と日本の差異について触れながら授業が進められるため韓国文化の知識も同時に増えていった。週に1回行われた文化体験授業では、授業中や生活していく中であまり使わない単語が出てくる機会が多かったため大変だった半面、非常に有意義な経験であった。

授業以外では、習った韓国語を活用したいという思いから、日本人同士で話すときも分かる韓国語を積極的に使うようにしていた。そうしたことで、先

生と徐々に韓国語でコミュニケーションが取れるようになっていたり、街中にある韓国語を理解できるようになり自分自身、そして仲間達の成長を短いスパンで感じる事ができた。

休日と平日の放課後の時間には大邱市内や釜山、ウルサンに行った。なかでも、ウルサンで行われたKPOPのフェスティバルを観覧できたことが印象に残っている。他の日には西門市場にも出向き、韓国式のおでんやチーズホットドックを食べた。



[ウルサンで行われたフェスティバル]



[西門市場の様子]

交通手段として、韓国はバスの乗り方が難しいという話を聞いたことがあった。そのためバスには必要な時だけ乗ろうと思っていたが、学校から最寄りの駅まで距離があり日常的にバスを使うことになった。乗り換え30分以内は料金がかからないなどメリットが多い反面、乗るバスを判断できる材料が少ないため何度か乗り間違えることもあった。

大邱で約3週間生活して日本との共通点と相違点を見つけることが毎日の楽しみだった。韓国は日本よりも同調行動をする傾向があるように感じた。流行を取り入れた服装の系統や色味が何種類もあり、その中から好きな系統を身に付けているように見えたからだ。他にも、バスへ乗り降りするドアが佐賀とは前後逆であること、バスや電車は先払いで、バスの場合降りる時はカードをタッチしなくてもいいなど些細な違いや共通点を見つけることができた。同時に、日本で自分が生活していた環境について考える機会にもなった。食品や物の品質の良さや、品ぞろえの良さ、インフラの整備が行き通っているなど当たり前のように送っていた日常もありがたい環境だったことを実感した。さらに、大邱大学日本語学科のバディと話をする中で、日本の就職活動の早期化を実感した。バディによれば、ほとんどの人は4年生の後半から就職活動始めるそうで、卒業した後には始める人も少なくないという。

最後に海外で生活する中で必要なものとして、「この国にはこういう一面があるのか」と納得するマインドだと感じた。そうすることで視野が広がり価値観が変わっていったと身をもって体感したからだ。今後もいろんな方との交流を通して視野を広げていきたいと思ったとともに、現状の語学力や行動力に満足せず、今回の出会いや経験を活かした行動をしていきたい。



[修了式]



[韓国料理テジクッパ]

「今回の研修を通して考えたこと」

芸術地域デザイン学部 芸術地域デザイン学科

2年 牛嶋咲希花

今回このプログラムに参加した目的は、韓国の文化や価値観を学ぶためである。私は将来、地元の地域創生事業に関わりたいと考えている。私の住んでいる地域は、アジア圏の外国人も多く住んでいる。まず、相手のことについてよく理解する必要があると考えた。結論から言うと、やはり異文化間での文化や価値観の違いをすぐに受け入れることは難しいと感じた。そう感じた留学中の経験が2つある。

1つ目は、食事だ。韓国はご飯の量がとても多い。味も濃いため、留学中に完食できたことはほとんどなかった。大邱大学のバディの方には、「残しても大丈夫だよ。」ともいわれたが、最後まで残すことに抵抗を感じた。韓国では、お腹がいっぱいになったことを食事を残すことで表現するという習慣があるということは事前に知っていたが、いざ自分が食事を残すとすると、もったいないと感じてしまった。

2つ目は排水機能の問題だ。韓国の下水管のパイプは細く、詰まってしまうためトイレが流せないことが多かった。そのため、トイレットペーパーはトイレに備え付けてあるゴミ箱に捨てていた。トイレットペーパーを流さないように気をつけていたにもかかわらず、生活していた寮のトイレやシャワーの排水溝が4回も詰まってしまった。最初にトイレが詰まったときは休日だったため修理に来てもらえず不便さを感じた。一方で、日本で同じようにトイレを使っても詰まることがなかった日本の排水機能にありがたさを感じた。

しかし、韓国で人の温かさを感じる場面も多くあった。韓国語初心者だった私は現地でのコミュニケ

ーションでハードルの高さを感じる場面が多かった。相手の言葉がうまく聞き取れなかった、そんな時でも現地の方は、ジェスチャーで伝えようとしてくれたり、英語を使ってくれたり、時には日本語で会話をしてくれる方もいた。帰国後、すぐに異文化を受け入れることは難しいが、今後も留学生との交流や他国への留学などより多くの経験を通して、より成長し、文化や価値観の違いを受け入れることができるようになりたいと思うようになった。日本に帰国した後も、韓国語能力検定のテキストを購入したり、後期の授業でも「韓国・朝鮮の言語と文化II」を履修したりするなど勉強を続けている。このプログラム中の経験は、大学生活の中でも印象に残るものの1つになったと考える。



バディとの写真



韓国での食事（トンカツ）

「今回の研修を振り返って」

経済学部 経済法学科 2年 東ななほ

大邱大学の3週間の語学演習プログラムによって、旅行ではできない経験を沢山することができた。私が今回大邱大学のプログラムに参加しようと思ったきっかけは、韓国に交換留学をしたいと考えていたことである。いきなり長期の留学に行くより、事前に短期留学をして交換留学の練習をしてみようと考えた。大邱大学での生活とこの経験から得たことについて話そうと思う。

午前に教室で行われる授業では、先生に昨日どこで何をしたか一人ずつ話したり日本から来た他の大学生と韓国語でコミュニケーションを取ったりしながら、文法や語彙を学んだ。文化体験授業ではチームを組んで、韓国料理のキンパを作ったり、チキン工場に行ってみんなでチキンを作ったりした。大邱大学のバディとは一緒に昼食や夕食を食べたり、キャンパスツアーをしてくださったりして仲良くなることができた。韓国に行く前の目標の一つに韓国人の友達を作ることを決めていたので、作る事ができて良かった。放課後には担任の先生がおすすめしてくださったトッポギのお店やトーストのお店に行き友達と楽しい時間を過ごした。毎日出される宿題を夜にするのは大変だったけれど、寮のルームメートと一緒に朝早く起きて1日も欠席したり遅刻したり宿題を忘れていたりすることなく大学に通うことができた。大邱はソウルほど外国人観光客が少ないので、お店に行っても英語で接客されることがなく韓国語を沢山使うことができた。

韓国の終戦記念日に日本人が外を出歩くと危険という情報もあったが、バディに相談するとそんなことはないといわれた。注意しながら休日だったので大邱市内の遊園地に行き、たまたま日本人だという事を伝えてもスタッフの方は親切な対応をしてくだ

さった。

韓国に行く前は韓国語を話す機会があまりなく、話せるか不安だったけれど、3週間が過ぎて日本に帰る頃になると韓国語をもっと話したい気持ちのほうが強くなった。しかし言語の壁を感じた瞬間があった。それは方言である。私のバディは大邱出身ではなかったため聞き取りやすかったため、楽しく会話をするのができたが、大邱出身や釜山出身で方言の強い大学生と話すときはイントネーションや語尾などが変わるため本当に7割くらい何を言っているのか分からずに何回も聞き直してしまった。また、発音の難しさも感じる瞬間があった。タクシーの運転手さんに目的地を伝えるときに全く伝わらずに諦めて画面を見せると発音を教えてくれたことが1回あった。しかしこの運転手さんも方言が強く、お互い何を言っているのか分からなくなってしまった。これから外国人と話すときには方言を強くしないようにしようと考えた。このプログラムではすべての瞬間が新しく、大邱という都市を知り、たくさんの人と出会い、様々な経験をし、学ぶことができた。これからも多くのことに挑戦して新しい経験をしていきたい。



「留学を振り返って」

医学部 医学科 2年 長原早希

今回の留学を通して、日本では出来ない体験をたくさんすることが出来た。その中でも、言語の習得について改めて考える機会になったと感じている。中学、高校と英語を第二外国語として勉強してきたが、それ以外の言語を習得しようと考えたことは今までなかった。しかし、今回の留学期間中毎日のように韓国語に触れることが出来たおかげで、留学前はハングル文字すら読めなかったがバスや標識の文字が読めた他、お店で注文をして店員さんと会話のやり取りが出来るようになった。大邱大学での授業はレベル別に分かれており、私は一番初歩のクラスだったので一から丁寧に学習出来た。最初は授業に追いつくことで精いっぱいであったが、アクティブラーニングの形式で授業が進むため、分からない部分をすぐに先生から教えて頂き自分の中に落とし込むというサイクルで理解を深めることが出来た。また質問されたときに間違えるかもという心配よりも積極的に発言することを心掛けた。

そしてバディーとの交流も言語について考える機会の一つとなった。私のバディーは日本語がとても流暢で、私が日本で話している時と同じようなスピード、文体で話してもしっかりと理解してくれた。また、日本特有の言い回しや比喻も伝わった。このようなことを母国語以外で出来るというのは、言語だけでなくその国の文化も知ることが必要になると思う。私は今回全くの無学状態から日常会話程度まで修得することが出来たが、今後言語を極めていく際は時代背景も同時に学ぶことでその国に対する理解がより進むのではないかと考えた。留学を経験したことで、今まで学んだことの無い言語を学んでみたいと思うきっかけになった。

日本に住んでいると、日本語を使うことが当たり

前であるし日本語でコミュニケーションを取ること
に不便を感じることはない。しかし、そうではない
環境に身を置き言語初心者として生活をする体験は
自分にとってとても貴重な経験となった。初心者な
りに失敗はつきものだという精神で能動的に学んだ
からこそ、自分が伝えた言葉が相手に伝わったとき
の嬉しさは母国語では味わえないものと感じた。
この体験は外国に行かなければできないことであっ
た。その他にも、佐賀大学の他学科の人たちと仲良
くなることができ自分と違う分野を専門に学んでい
る人の話を聞くことで自身の見聞を広げられた。行
くまではハードルが高いと感じていた留学であった
が、得られる経験の一つ一つが今後の糧になると感
じられるほど充実した日々を過ごすことが出来た。



韓国語を使って頼むことができた飲み物

「大邱への留学」

理工学部 理工学科 データサイエンスコース

2年 宮原珠梨

私は19日間韓国の大邱大学校プログラムに参加してきました。私はK-POPと韓国ドラマが好きなのがきっかけで独学で韓国語の勉強を始めました。そこで実際に韓国の方との交流を通して実践的な韓国語能力を身に着けたいと思い、今回このプロジェクトに参加することにしました。大邱に着いて次の日にレベル分けテストを受け、その次の日から本格的に授業が始まりました。授業は、平日に9時30分から13時20分まで50分×4コマで構成されていました。韓国人の先生が授業をしてくださり、私たち佐賀大学の学生だけでなく、日本の他大学の学生と一緒に韓国語の授業を受けました。授業では韓国語の文法を習い、ライティング、リスニングを毎日勉強しました。韓国語の文法の説明や使い方もすべて韓国語で進められましたが、先生がスクリーンに関連画像を映し出しながら教えてくださったため、とても分かりやすく、実践的な韓国語学習に取り組めました。また、毎週水曜日には文化体験の授業がありました。大邱で有名なチキン作りの体験をしたり、モール人形を作ったり、韓国の美術館にも行きました。

平日の放課後や休日には大邱市内にショッピングをしに行ったり、釜山に観光をしに行きました。大邱市内にはバスで1時間ほどで行くことができました。そこでは日本との違いをかなり感じました。まず、韓国のバスは自分から乗る意思を示さなければバスが停まってくれず、さらに日本よりバスの速度がかなり速いため、最初はとても驚きました。今回、私はSUSAPの志願書の韓国に関する興味・関心に韓国でのキャッシュレス化のことについてあげました。実際市内に行って買い物をしていて、現金

では払えないというところはなかったですが、買い物をしている韓国の方で現金払いをしている人はほとんど見かけませんでした。また、韓国ではクレジットカードもすべてスマートフォンと連携させてカードをかざすのではなく、スマートフォンで決済をしていることを知りました。バスや地下鉄でもチケットを買っている人はほとんどおらず、子供でもスマートフォンでのキャッシュ決済を利用していました。観光客や留学生もチケットを買うのではなく、コンビニなどで販売されている交通カードを利用することを知りました。今回私たちが訪れた留学先はソウルほどの都会ではありませんでしたが、自分が思っているよりもはるかにキャッシュレス化が進んでおり、このキャッシュレス社会は非常に便利だなと感じました。他にも、日本より良いと感じた部分がありました。韓国では、顔認証システムなどのAIが発達しており、大学内の施設や寮の出入りもすべて顔認証でした。また、韓国では、玄関が鍵ではなく、暗証番号を入力して扉を開けるオートロックが一般的で、私が滞在した寮もそうでした。このシステムは、鍵の閉め忘れや鍵をなくす心配がないのでとても便利で、韓国ならではの利便性を実感しました。

今回韓国に留学して、自分の韓国語力を伸ばすだけでなく、異文化に触れる貴重な体験ができました。これからも多様な価値観を尊重しながら、他の国の文化にも興味を持って関わっていきたいと思います。

修了式にて



「今回の研修を振り返って」

農学部 生命機能科学コース 2年 阿部香菜

私は今回の SUSAP で韓国プログラムに参加しました。ずっと韓国の音楽に興味があり、訪れたいと思っていたがこれといった機会がなかったのと、このプログラムは韓国語初学者でも応募可能であったので、今回韓国プログラムが追加されたと知ったときはこれだ！と思いあまり迷わずに参加を決めることができました。

私が今回のプログラムを通して感じたことを勉強面と生活面に分けて話します。

勉強面として一番にくるのは韓国語をもっと勉強していけばよかったという後悔にも近い思いです。まず授業について3クラスに分けられ、私が参加したのは1番初心者のコースでした。母国語が韓国語の先生であったため理解できるかの不安がありました。先生は発音から一人一人矯正してくれたため基礎から身につけることができ、はじめて韓国語を学ぶ身としてとてもよかったです。また教室も大学の講義では見ることのないコの字型に机が並べられて積極的に授業に参加しやすい雰囲気でした。単語は日本語と似ているものもあるため他言語と比較しても覚えやすく、私的にキャッチーなフレーズが多くあり頭に残りやすいと感じました。私は自分の記憶力を信用していないので、覚えたフレーズは何度も口にすることを心掛けました。ハンゲルがギリギリ読めないレベルからスタートしたため、2週間でも成長を実感できたと思います。今回のプログラムにはすでに話せる人も多く、彼らがバディやお互いに話している姿を見て今すぐ話せるようになりたいという思いが募りました。

生活面としては、日常生活が本当に充実し思い出がたくさんできました。なかなか遠出することはで

きませんでした。一生分の大邱を満喫することができたと思います。私の韓国人のバディは非常にやさしく、日本が大好きな方でした。遊びに連れて行ってくれ、韓国でしか食べられないものをご馳走してくれました。カラオケができる観覧車でレモンを歌ってくれたこと忘れません。日本語が非常に堪能でコミュニケーションには困りませんでした。彼に甘えすぎた部分もあると感じました。次会うときはもっと向上した姿を見せて驚いてもらうのを目標としています。大邱は非常に暑かったです。バディが言うには、大邱はアフリカのように暑いことからテフリカという造語ができ、韓国人は夏外に出ませんとっていました。しかし私たちにあるのは19日間で、寮にとどまるだけの時間はないのでした。大学から大邱市内までは公共交通機関で2時間ほどかかりましたが、地図がなくてもギリ帰ることができるほど通いました。韓国は地下が発展しており、お店が多かったため個人的に避暑地として気に入っていました。韓国のご飯は言わずもがなおいしかったです。特におばあちゃんが経営しているような食堂に外れはありません。注文時、私のつたない発音でも聞き取ってくれアドバイスもくれました。暑さとは全く異なる人の温かみをたくさん感じられました。

今回の留学は新たな語学の習得の第一歩になったと思います。勉強しようと思ってもなかなか腰が上がらずじまいであったが、韓国語の面白さを知り学びたいという思いがうまれ今回の留学に参加した意義を感じました。また韓国の学生のすごさも感じました。同世代が日本語を巧みに操る姿は非常に刺激的でした。事前学習で反日について調べ少し不安な気持ちもありましたが、アニメや漫画など私よりも詳しく日本への好意も感じられてうれしい気持ちになりました。

最後になりますが、今回関わってくれた人は皆優しくとても安心して留学生活を送ることができました。たくさんサポートしてくれた現地のバディたちや現地の国際寮で一緒になった方、企画して下さった国際課の方、出会った人全員へ感謝を述べたいです。特に一緒に行ってくれたみんなへ、みんなでご飯を作ったり、食べたり、話したり、卓球したり、テスト前は夜まで勉強したり、毎日が特別で一瞬に感じられるほど濃く楽しい生活を送ることができました。ほんとにとっても頼れるメンバーです。この11人で留学に行けたこと、本当にうれしく思います。

정말 감사합니다 !!



バディと焼き肉



先生と卒業式

「留学を振り返って」

農学部 生命機能科学コース 2年 坂田涼音

2024年8月、約一か月間の短期留学で韓国の大邱に滞在しました。この留学は、韓国語を学びつつ、現地の文化を体験する貴重な機会でした。特に、韓国語の習得や生活面でのチャレンジが、私にとって大きな学びとなりました。

最初、私はハングルを読むことが全くできませんでした。初日の授業では、教科書や看板が全く理解できず、一緒に韓国に行ったメンバーに後れを取っていると思い、焦りを感じていました。しかし、先生が丁寧に教えてくださり、2日目にはハングルを読めるようになりました。これは私にとって大きな自信につながりました。そして学習意欲が一気に高まっていた気がします。授業を通じて、基本的な会話や発音のポイントを抑えることができ、留学終盤には一人で買い物に行くことができるようになりました。店員さんと話せるということはすごくワクワクするもので、韓国語を使う楽しさを実感しました。話せることが楽しくて、つつられて高いものを買わされたけど、それもいい思い出だと思っています。このように現地の人とコミュニケーションを通じて自分の成長を感じることができました。

学ぶことが純水に楽しく感じられたのは、私にとってとても意外なことでした。言語の勉強は苦しいと感じることも多いですが、韓国語を学ぶ過程では、達成感や現地での生活の中で実際に使えるという実感が伴い、苦勞を感じることは少なかったです。日常会話の中で、これは韓国語で何て言うんやろ、と言ってそのたびスマホで調べるほど、自主的に学ぶことができたと感じています。

生活面では一年間の一人暮らしの経験があったため、二人部屋の寮生活は最初戸惑いが多かったで

す。特に水栓面は発展が遅く、排水がうまくいかないことが何度もありました。こうした不便さに加えて、部屋が狭く、プライバシーが少ない環境での共同生活は、私にとって少しストレスを感じる場面もありました。



また、集団行動が求められる場面が多かったです。私は自由な時間を好むため、不満を感じることもありました。しかし、そのたびに自分の心が狭いのではないかと感じ、反省することも多かったです。この経験を通じて、自分の心の持ち方や他者との協力の重要性について考えさせられました。

韓国の食事について、初めはその辛さに驚きました。慣れないうちは辛さに苦勞しましたが、三日もたつとその辛さがむしろ心地よく感じられるようになりました。辛い料理を食べないと物足りなく感じるほどで、韓国料理の魅力を新たに発見しました。しかし、毎日外食が続いたことやジャンキーな食べ物が多かったため、胃が弱い私はよく胃もたれに襲われていました。さらに生野菜を食べる機会がほとんどなく、さらに私の胃が苦しめられた気がしま

す。

韓国で驚いたことの一つが、すべてが速さを重視する“パリパリ文化”でした。特にバスの運転手は異常で、乗客が座っていないうちに発車することが当たり前でした。足の弱いお年寄りでも発車するので、韓国は日本と同様年上を敬う文化があると思っていましたが、違いを感じました。マイペースな私はこの文化に慣れるまで結構な時間がかかりましたが、新鮮で楽しむこともできました。

この一か月間の留学は、私にとって非常に充実したものとなりました。言葉の壁を乗り越え、生活面での不便さや文化の違いを受け入れることで、自分自身が大きく成長したと感じています。特に現地の人達と交流を通じて少しずつ自信をもってコミュニケーションをとれるようになったことが、一番の成果だと思っています。



「今回の研修を経て」

理工学部 理工学科 1年 平山太郎

私は今回 susap2024 韓国のプログラムに参加した。今回このプログラムに参加させていただいた理由は単に韓国語を学びたかっただけでなく、普段の大学生活ではできないことを体験したいと思ったからだ。

そんな中私がこのプログラムで一番心に残っているのは大邱大学のバディーとの交流だ。私たちは大邱大学が夏休みの期間に行われたプログラムだったため大邱大学の生徒さんたちと交流をする機会はバディーの方々以外はほとんどなかった。しかし、短い時間であってもバディーの皆さんは交流する機会を設けてくれ、分からない韓国語を教えてくれたこともあった。普段の生活の中で韓国人の方と交流する機会はほとんどないためとてもいい機会となった。



バディーとの交流！

韓国と日本のギャップに驚かされたことが多くあった。トイレットペーパーをトイレに流せないこととご飯は少し残すのが当たり前だということが特に印象的に残っている。韓国はまだトイレットペーパー

を流すと詰まってしまう可能性があるため流すことができないためゴミ箱が横に設置してある。そこに使用後は入れないといけない。ご飯は残さないとごはんが足りなかったと捉えられてしまうため、残さないと失礼に当たる可能性があるのだ。このことは日本人からしたら全く逆のことであり韓国と日本の文化の違いに大きく驚かされた。私はこの経験から日本の良さを改めて感じた。普段当たり前のように生活していることは当たり前ではないと改めて感じることができ、身の回りの当たり前だと感じていることに再度感謝の気持ちを持つ機会となった。また、韓国の歴史や文化について関心を持つようになった。

今回のプログラムは私にとって初めての海外だったこともありもう少し韓国語を勉強してから参加すべきではないだろうかと思ったこともあった。しかし、思いきって今回のプログラムに参加して考え方が変わったことや、沢山の思い出ができ、本当に参加することができて良かったと思う。何か決断することに悩むことがあったら経験してみることをこれから大切にしていきたいと思う。



修了式 ✨